

第5章 人口統計学的サブグループの違い

概要

2023年調査において、若年成人では大麻使用経験率は、女性が男性より有意に高かった。

- 大麻使用年経験率は、若年成人女性で44.1%、若年成人男性は40.3%であり有意差があった。一方、月経験率では有意ではなかった。性差は2010年頃から縮小傾向にあったが、若年成人女性の方が男性よりも経験率が高いのは今回調査が初めてである。
- 2022年から2023年にかけて、大麻使用の月経験率は、早期中年期成人の女性で有意に増加したが、男性は増加しなかった。

2023年調査では、若年成人(19歳から30歳)、早期中年期(35歳から50歳)、中年期成人(55歳から65歳)の多くの指標で、男性が女性よりも物質(薬物)使用経験率が有意に高かった。特に:

- 大麻使用年経験率は、2023年調査では男性(早期中年期成人と中年期成人)の間で高かった。
- 早期中年期成人および中年期成人のアルコール使用(飲酒)月経験率と大量飲酒経験率は、男性(若年成人、早期中年期成人、中年期成人)で高かった。
 - 2022年から2023年にかけて、早期中年期成人の女性では、アルコール使用(飲酒)月経験率と大量飲酒経験率の両方が有意に減少したが、早期中年期成人の男性では減少しなかった。
- たばこ(シガレット喫煙)月経験率は、男性(若年成人および中年成人)で高かった。
- ニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)の月経験率は、男性(若年成人)の間で高かった。
- 大麻以外の薬物の年経験率は、男性(若年成人および早期中年期成人)の方が高かった。
- 経時的な動向をみると、若年成人の間でアルコールの使用経験率(飲酒/1994年頃以降)と大量飲酒経験率(1989年頃以降)の性差が縮小した。

2023年の人種/民族サブグループによる有意差が見られるのは以下の薬物である:

- 白人の若年成人は、アルコールの使用(飲酒)、大量飲酒、ニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)、および大麻以外の薬物の使用経験率が黒人の若年成人よりも有意に高い。ヒスパニック系の若年成人は、黒人の若年成人よりも大麻以外の薬物の使用経験率が高かった。
- 白人の早期中年期成人は、アルコール使用(飲酒)、大量飲酒、ニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)、および大麻以外の薬物の年経験率が黒人の中年成人よりも高い。ヒスパニック系の早期中年期成人は、黒人早期中年期成人よりもアルコール(飲酒)と大量飲酒の経験率が高い。
- 黒人とヒスパニック系の若年成人では、大麻年使用率が数年間低かったが、過去10年間で白人の若年成人に近づいた。同様の傾向は中年成人にも見られる。

はじめに

2023 調査における MTF パネル サンプルの性別/ジェンダー別、人種/民族、性的指向に関する人口統計分布を表/図 115 に示す。2023 年調査における性別および人種/民族による物質（薬物）使用経験率レベルの違いは、若年成人(19～30 歳)、早期中年期成人(35～50 歳)、および中年期成人(55～65 歳)ごとに表/図 148～150 に示す。性別および人種/民族別の物質（薬物）使用経験率の傾向は、若年成人(19～30 歳)と早期中年期成人(35～50 歳)について別々に表/図 116～147 に示す。若年成人のサブグループデータは 1988 年から、早期中年期成人は 2008 年から、中年期成人のサブグループデータは 2023 年から示してある。示されているサブグループのサンプル・サイズは、変数と年に応じて、毎年 100 から 2,800 の範囲である。人口統計グループごとの違いを示す表や図は、<https://monitoringthefuture.org/data/panel/demographic-subgroups/> の MTF Panel データ ダッシュボードの一部からも見ることができる。

性/ジェンダー別

MTF では、性/ジェンダー別サブグループ間の差異の分析において、高等学校の 18 歳の時点で報告された性別を用いた。1976 年から 2020 年にかけての調査では、MTF の 18 歳を対象とした学校内調査では、参加者に「性別は何ですか?」と尋ね、この際には男性と女性の 2 つの回答選択肢を示していた。2021 年調査には、3 つ目の回答選択肢である「その他または回答しないことを希望する」を追加した。2022 年以降の調査では、18 歳時点での回答の選択肢は、男性、女性、その他、回答したくないという 4 つの選択肢とした。ここでは他の応答のサンプルサイズが小さいため、男性と女性のみが表示している。2019 年調査からは、MTF パネル(19+歳)の参加者に対して、「自分をどのように表現しますか?」という性自認の質問を追加した。2022 年調査以降、MTF パネルの回答者は、女性/女性 (Female/Women)、男性/男性 (Male/Men)、ノンバイナリー、トランスジェンダー、その他、回答したくないという 6 つの回答選択肢から、該当するものをすべてチェックできるようにした。より多くの個人に関するデータが収集できるようになれば、性的マイノリティグループ間の違いを調べることができるようになる。2023 年調査のサンプルに関する追加情報と、19 歳から収集されたより詳細な性別と性別のデータは表/図 115 に示す。

人種/民族

人種/民族サブグループの違いの分析では、高等学校の 18 歳の時点で報告された人種/民族性を用いた。2005 年調査以来、MTF の 18 歳を対象とした学校内調査の質問は、「自分をどう表現していますか?(1つ以上の回答を選択してください。とし、回答には以下が含まれるようにした: 黒人またはアフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系カテゴリーに組み合わされた次の 4 つ: メキシコ系アメリカ人またはチカーノ、キューバ系アメリカ人、

プエルトリコ人、その他のヒスパニック系またはラテン系、アジア系アメリカ人、白人(白人): アメリカインディアンまたはアラスカ先住民、ハワイ先住民またはその他の太平洋諸島民。2005年調査以前は、回答者は1つの選択肢しか選択できなかった。人種/民族別の傾向は、黒人、ヒスパニック、白人の3つの上位サブグループについて示した。アジア人、アメリカインディアン、多人種などの追加のサブグループの傾向は、サブグループのサンプルサイズが小さいため(また、これらの小さなカテゴリー間で物質(薬物)使用パターンが異なるため、「その他」のカテゴリーにまとめていない)、ここには示していない。2023年のMTFパネルサンプルの人種/民族の分布に関する情報は、19歳から収集されたデータを含め表/図115に示した。

性的指向

性的指向は、2017年にMTFパネル調査に追加され、2019年に更新した。2019年以降、質問は「あなたは自分自身を……(該当するものすべてに印をつけてください。)とし、ストレート、ゲイまたはレズビアン、バイセクシュアル、またはその他の回答オプションを設けた。性的指向に対する2023年MTFパネルのサンプル回答に関する情報は、表/図115に記載した。データが長期間にわたって、より多くの個人について収集できるようになるにつれて、性的マイノリティグループの薬物使用の傾向を報告することができる。

最も一般的な物質(薬物)

大麻・マリファナ、アルコール(飲酒)、たばこ(シガレット喫煙)、ニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)、大麻・マリファナ以外の薬物など、最も一般的な物質(薬物)の結果について報告する。性別および人種/民族による有意差の検定は、19歳から30歳の若年成人については表/図148、35歳から50歳までの早期中年期成人については表/図149、55歳から65歳までの中年期成人については表/図150に示した。他のサブグループや他の物質(薬物)の違いについては、研究者が利用できるデータで調べることができる¹。

サブグループの違いと物質(薬物)別の傾向

大麻・マリファナ

性別 2023年調査において初めて、大麻・マリファナ使用の年経験率は、若年成人女性(44.1%)が男性(40.3%)よりも有意に高かった(表/図148)。2018年以前の調査では、若年成人男性は一貫して女性よりも使用頻度が高かった。しかし、過去5年と10年間で、若年成人女性における過去12ヶ月間の大麻使用(年経験率)は大幅に増加しており、これは若年成人男性の過去10年間の増加を上回っており(表/図116)、これがクロスオーバーの要因になっている。

若年成人では男性と女性間に月大麻経験率に有意差は認められなかった。ただ、2023年

調査では女性の大麻経験率が、初めて男性よりも高くなった。女性の大麻月経験率は過去5年および10年間の両方でみても増加した後、この指標でもクロスオーバーが認められた(表/図 120)。

早期中年期成人では、大麻の使用は、年経験率のみで男性が高い状態が維持された(表/図 149)。中年期成人では、大麻の使用は、男性で年経験率と月経験率が高かった(表/図 150)。早期中年期成人では、男性と女性ともに、大麻の使用が有意に増加した(年経験率および月経験率(表/図 118 および 122))。特に、早期中年期成人の女性では、大麻使用の月経験率が2022年の14.8%から2023年には17.8%へと有意に増加した(表/図 122)。

人種/民族。

2023年調査では、19歳から30歳の若年成人において、または35歳から50歳までの早期中年期成人において、大麻年経験率および月経験率は黒人、白人、ヒスパニック系の人種間で大きな差はなかった(表/図 117 および 121) (表/図 119 および 123)。55歳から65歳の中年期成人では、白人は、大麻年経験率および月経験率が黒人より有意に高かったが、ヒスパニック系は黒人または白人と比較して差はなかった(表/図 150)。

アルコール (飲酒)

性

若年成人のアルコール使用(飲酒)月経験率については、男性では有意に減少している一方、女性では過去10年間で増加し、性による差が縮小している(表/図 124)。2023年調査では、若年成人のアルコール(飲酒)月経験率に性別による有意差はなかった(表/図 148)が、大量飲酒の経験率は、若年成人男性が引き続き若年成人女性よりも高い(2023年調査では男性31.8%、女性23.4%(表/図 148))。35歳から50歳までの早期中年期成人では、性差はより一貫した傾向があり、男性の月アルコール(飲酒)経験率は女性よりかなり高い(男性74.2%、女性64.2%)。また、大量飲酒経験についても2023年調査では男性36.1%、女性18.9%であった(表/図 126 および図 149)。2022年から2023年にかけて、早期中年期成人の女性では、アルコール(飲酒)月経験率と大量飲酒量経験率の両方が有意に減少したが、早期中年期成人男性では減少しなかった。このため、男性と女性のギャップが拡大した(表/図 126)。55歳から65歳の中年期成人では、男性は女性に比べてアルコール(飲酒)月経験率が高く、また大量飲酒経験率も高かった(表/図 150)。

人種/民族。

アルコール(飲酒)経験率に見られる差異は長期にわたって持続しており、若年成人では、2023年調査において、アルコール(飲酒)月経験率が最も高かったのは白人であり(69.3%)、次いでヒスパニック系(59.2%)、黒人(57.3%)であった(表/図 125 および図 148)。しかし、ここ過去10年間で、黒人の若年成人の間では、アルコール(飲酒)月経験率が有意に増加した(2013年の53.7%から57.3%。表/図 125)。一方、白人の若年成

人ではアルコール（飲酒）月経験率は過去 10 年間でわずかに減少した（2013 年の 72.1% から 69.3%（表/図 125）。このため白人と黒人のギャップは狭まった。ヒスパニック系の若年成人では、アルコール（飲酒）月経験率は、2022 年の 66.2%から 2023 年には 59.2%に減少したが、他のグループではこの 1 年間で大きな変化は見られなかった（表/図 125）。大量飲酒については、白人(29.6%)の若年成人は黒人(20.0%)の若年成人よりも大量飲酒の経験率が高かった(表/図 129 および 148)。35 歳から 50 歳までの早期中年期成人では、黒人(19.3%)は白人(27.3%)やヒスパニック系(34.0%)よりも大量飲酒経験率が低い。2023 年調査では、ヒスパニック系の早期中年期成人の大量飲酒経験率は同年齢層の白人よりも有意に高かった（表/図 131 および 149）。アルコール（飲酒）月経験率においても、早期中年期成人（表/図 127 および 149）と 55～65 歳の中年期成人(表/図 150)の間で同様のパターンが観察された。ヒスパニック系中年期成人では、過去 5 年と 10 年間でアルコール（飲酒）月経験率はわずかに増加した。一方、同年齢層の白人では 2022 年の 73.8%から 2023 年の 68.6%へと 1 年間で有意に減少した（表/図 127）。また、白人の中年期成人では、過去 5 年間で大量飲酒経験率が有意に増加したが、2022 年から 2023 年にかけての 1 年間の減少によってわずかに相殺された(表/図 131)。

たばこ（シガレット喫煙）

性

若年成人においては、たばこ（シガレット喫煙）経験率の性差は、過去 5 年と 10 年間で若年成人の男性と女性の両方で有意に減少したにもかかわらず、比較的一貫している（表/図 132）。2023 年調査においては、若年成人では、たばこ（シガレット喫煙）月経験率は、男性(11.4%)が人女性(6.4%)よりも有意に高かった（表/図 148）。35 歳から 50 歳の早期中年期成人では、2023 年調査において過去 10 年間で男性と女性の両方で有意の減少が見られた(表/図 149)。男性では、たばこ（シガレット喫煙）月経験率が 1 年間で有意に減少した(2022 年の 14.3%から 2023 年の 10.2%)ため、男女間に差はなくなり、2023 年調査では男女ともに 10.2%となった（表/図 134、149）。

人種/民族

若年成人では、たばこ（シガレット喫煙）月経験率は白人で一貫して最も高かったが、人種/民族の差は縮小している(表/図 133)。2023 年調査では、若年成人(表/図 133 および 148)、早期中年期成人（表/図 135 および 149）、中年期成人(表/図 150)において、人種/民族による有意差はなかった。

ニコチン過熱吸引（Nicotine vaping）

性

2023 年調査において、ニコチン過熱吸引（Nicotine vaping）経験率は、若年成人では女性よりも男性の方が有意に高かった(表/図 136 および 148)が(表/図 136 および 148)、早

期中年期成人(表/図 138 および 149)および中年期成人(表/図 150)では有意な性差はなかった。

人種/民族。

ニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)経験率は、すべての人種/民族グループにおいて過去5年間で増加した(表/図 137)。このなかでニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)経験率は一貫して、白人の若年成人で最も高い(2023年調査では白人は20.3%で、黒人よりも有意に高いがヒスパニック系に対しては有意ではない(表/図 137 および 148))。ニコチン過熱吸引(Nicotine vaping)経験率は、早期中年期成人においても白人は黒人より高い(表/図 139 および 149)。中年期成人では、人種/民族による差はなかった(表/図 150)。

大麻以外の薬物

大麻以外の薬物の非医療的使用に関しては、幻覚剤(LSDを含む)、コカイン、アンフェタミン、鎮静剤(バルビツール酸塩)、精神安定剤、あへん系麻薬(ヘロインを含む)について示した。55歳から65歳の中年期成人では、55歳以降は幻覚剤の使用について調査しておらず、幻覚剤が含まれていないため、項目数が少なくなっている。

性

2023年調査において、大麻以外の違法薬物の使用の年経験率は、若年成人では男性で引き続き高い(男性19.1%、女性14.5%)。表/図 140)、しかし、月経験率は男女間で有意ではなかった(7.4%対5.9%;表/図 144 および 148)。同様に早期中年期成人において、2023年調査では、男性は大麻以外の違法薬物の年経験率が女性より高い(12.7%対10.1%)が、月経験率に差はなかった(4.6%対4.8%;表/図 142 および 149)。

人種/民族

2023年調査においては、若年成人では、白人とヒスパニック系の大麻以外の薬物の年経験率が最も高く(ヒスパニック系で15.4%、白人の若年成人で18.1%)(表/図 141)、黒人で年経験率は最も低かった(8.2%)(表/図 148)。この傾向は1988年にこの全年齢層が初めて調査されて以来(表/図 141)観察されている。大麻以外の薬物の月経験率については、2023年調査では黒人の若年成人は白人の若年成人よりもレベルが低く、唯一有意差が観測された(表/図 148)。この傾向は年を経ても一貫しており、黒人の若年成人は、この全年齢帯に関するデータが1988年に初めて調査されるようになって以来、大麻以外の違法薬物の月経験率が最も低かった(表/図 145)。35歳から50歳までの早期中年期成人年齢層(表/図 143)においては、白人は大麻以外の違法薬物の年経験率が黒人より高かったが、月経験率には有意差はなかった(表/図 149)。同様に、55歳から65歳の中年期成人でも、大麻以外の違法薬物の年経験率および月経験率は、白人で最も高く、最も低い黒人との間に有意差があった(表/図 150)。